

崔書勉先生と私 — 崔先生に寄り添い 教えられての十六年が過ぎました —

日韓談話室 世話人 オズインターナショナル 会長 寺田 佳子

(小河原史郎氏と韓国交流の為に共に興した旅行会社)

一九六六年 その頃 花形だった海外旅行の仕事をしていた私は ソウル・台北へ行かれる国策研究会の矢次一夫先生 小河原史郎氏を鍛冶田進氏にご紹介頂き その豪快さに引きずられ日韓協力委員会の仕事にのめりこんでしまいました。ところが お二人とも亡くなられ 私はどうやって日韓と係わって行けば良いかと・・・悩んでいた時 一九九六年日韓協力委員会の勉強会で幸運にも久し振りに崔書勉先生にめぐり会い、今日の崔書勉先生を囲む会―日韓談話室―に続く事となり矢次先生 小河原氏に崔先生との出逢いと三回の幸運を感じております。

最近うれしかった心のつながりがありました。

二〇〇七年四月四日、柳明桓大使歓迎夕食会の席上でした。私どもスタッフを紹介してくださった崔先生が私の事を「この人は日韓問題があると先ず韓国側に立つて考えることから始める有難い人」だと話して下さいました。さすが？・・・私の事を理解して下さいるととても嬉しかった事でした。

二〇一一年に入るとお会いする度、先生は「死に場所を探しているよ」とおっしゃり始めました。最初は冗談めいた様におっしゃっていたのですが・・・余りくり返されるので・・・真剣に考えなければと思うようになりました。親しくしているご友人、知人を一人また一人と失われお寂しさが募ってくるのでしょうか・・・そして、先生はついに今年四月一日の談話室勉強会の折、終焉の地は日本国、さぬき倶楽部囲む会・・・とおっしゃいました・・・私は嬉しく感激しております。橋本明氏は一重にも二重にも私たちが抱く思慕の情が決めることとおっしゃっておられます。今は私は病身、十分なお手伝いも出来ませんが、これからも先生らしい沢山の充実した日々を日本で過ごし

て頂き度いと願っているのです。

「死しても日韓の友情を見守りたい」―男の熱き友情として―特に「崔先生と私」のタイトルには応えておりませんがこの会での一番電撃的な体験であり崔先生を理解する一つのドキュメントと思ひ書き添えました。それは金政英駐韓第二大使（一九九七年十一月一日八十八才にて他界）の御遺骨をソウルへ遷送し埋葬式を行った事でした。この行事は崔先生が描いた男の熱き友情の実現だったと思います。先生の指揮の下、「崔書勉先生を囲む会」で凡てを取り仕切りました。

発起人は時の総理村山富市氏、聖心女子修道会前東洋管区長キーヨ女史にお願いし崔先生とお三人、事務局は寺田で、大使三男成吉氏にもご指導を頂きました。

韓国側は元総理金鍾泌先生、時の国会議長金守漢先生が引き受けて下さいました。日本人を韓国の地に埋葬する特別の許可・・・反対デモの中・・・押し通して頂きの実行でした。私たちは一九九八年八月二十八日崔先生の指揮の下、代表を越智通雄元国務大臣、団長は橋本明元共同通信社記者と副団長塚本勝一金山大使時代の日本大使館付き武官、そして金山家ご遺族に 囲む会関係者十名の葬送団で訪韓致しました。埋葬式は金山先生の洗礼名にちなみ聖アウグスチヌの日・八月二十九日 勿論 暑い暑い日ながら秋風の立つ晴天のさわやかな日でした。金南洙ローマカトリック教会大司教様、金玉均主教様が式を取り行つて下さり 日本と違う大きな広い墓地に約百人余りの参列者が御遺骨をお見送り大使はついに韓国の地に・・・「死しても日韓の友情を見守りたい」と云う大使の強い意志に従い葬られました。このお墓は生前に崔先生のお墓のお隣に用意されてありました。

金山先生 日韓の友人・知人の友情に熱く、厚く見守られ乍らご希望の地 韓国で安らかに眠りなさい。

この度の韓国側の取り組みの盛大さは、前夜の偲ぶ会、墓地への献花には元首相金鍾泌、元国会議長朴泰俊先生、当時の国会議長金守漢先生をはじめ高名な方々が御臨席下さり、今迄の私の知る韓国とは違い熱い韓国心に触れられ

金山大使・崔先生の人徳、熱意の賜物と感無量でした。

ソウルでは大きなニュースとなり新聞は勿論テレビにも取り上げられました。私までソウルの知人から貴女をテレビで見つけたと連絡下さったりの状況でした。

私達崔書勉先生を囲む会にとって素晴らしい国際親善が出来たと自我自賛大感激でございました。この行事に関わらせて頂いた私は深く、韓国人である崔先生を理解出来る様になったつもりです。

皆様訪韓の折には、ソウルの北キリスト教の一山墓地に一人眠る大使に会いにいらして下さる様お願い致します。

葬儀の後、寄せられた一文の抜粋を御紹介したいと思います。

崔書勉先生

金山政英の韓国に埋葬されるという事は、それ自体まれなる事であるが、ことに日韓関係の過去の歴史を振り返る時、それは常識ではないと言う事が我々の常識であったにも拘わらず実現出来たのは、金山の遷葬によって日韓関係の未来への関係に何か大きな意味が感じられると思われるのである。

そしてその未来的展開に於いて、金山が「韓国の地に埋まりたい」という決意が、金山死しても尚、する事があると言う意味をことさら感じさせたのである。

大使夫人 金山やす子様

韓国に埋葬される事は主人の強い意志でした。しかし、まさかこれが実現するとは誰も予想もしませんでした。それだけに今は夢の様な気持です。感激で胸がいっぱいです。主人は何時も韓国の事ばかり考えていた様です。晩年、アルツハイマー病に犯されて意識は朦朧としてましたが、それでも、『これからソウルへ行く！』とか、『崔はどうし

た！』とか、時折口走る言葉は何時も韓国の事ばかりでした。主人が元氣だった頃、酒に酔っては愚痴をこぼす事がありました。

『私を理解してくれるのは日本人よりも韓国人だ。』と言うのが口癖でした。

それだけに主人が韓国に埋葬される事についてどんなに喜んでいるかと思うと涙が流れて止まりません。金山は韓国に帰って来られたと言う気持ちだと思います。

大使三男 金山成吉様

おかげさまで、金山政英は韓国とその人々を愛した一人の日本人として栄光に包まれた一生を完結する事が出来ました。私は今回の一連の行事に貫かれている思想を痛感しました。つまり「純粋な心をもった男」にふさわしい葬儀にしたいと言う崔書勉院長の考え方が随所に現れていました。

したがって「利権をむさぼり」、「懐を肥やし」そして組織的又個人的に利権を漁る為、金山政英に接近し利用した品性に欠ける輩は意識的にこの葬儀から厳しく排斥された。そして金山と同じ立場にたつて国を思い、韓国の発展の為に尽力してきた人々だけが今回の葬儀に参加が許された。これは崔院長がローマカトリック教会を巻き込んだ大胆、且つ緻密な手法で、死んだ、いわば「異国の戦友」にみせた心暖まる心遣いだと強く感じました。